

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	哲学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	1年生教室
担当教員	稲村 秀一	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》 まず、哲学という学問の成立について説明する。次に、医療の現場での基本的課題である「人間を理解する五層の視点」を学ぶ。特に人間の「生と死」の問題について考える。その後で、(1)西洋思想史での人間観と死生観、(2)東洋思想史(主として仏教、儒教)における人間観と死生観、(3)日本人の伝統的な人間観と死生観を考察する。この死生観について理解しておくことは看護の現実において避けられない厳粛なテーマである。						
《成績評価の方法と基準》 レポート(30%) 筆記試験(70%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 必要な資料は授業中に配布する。						
《授業外における学習方法》 シラバスを読み、配布資料のファイル整理と内容確認を行う。参考文献として挙げたものを各自で読んでみる。						
《履修に当たっての留意点》 毎回、資料を配布する予定なので、ファイルを必ず準備すること。知的な好奇心をもって聴講すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会の諸問題の本質を洞察し、解決するところに哲学の使命がある。そこで、哲学(Philosophy)の語源と課題について指摘する。特に、医療の現場における哲学的思索の課題を考えてみる。	配布資料	【事前学習】シラバスを読んでおく事 【事後学習】配布資料をファイルし内容確認	
		各コマにおける授業予定	序論 (1)現代社会と「基礎分野」としての哲学 (2)哲学の語義と現代の課題			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	「死」を考えることは「いかに生きるか」を考えることである。「人間らしく生きる」ことに深く関わるケアにおいては、死の問題は不可避である。さまざまな死の現象を取り上げて考察する。	配布資料	【事前学習】本日の資料の確認 【事後学習】配布資料をファイルし内容確認	
		各コマにおける授業予定	第1章 人間の生と死の考察ーケアにおける死生学という視点			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間は五つの層から成り立っている。それぞれの層の「生」と「死」について、また病と健康について考察する。さらに「生きる意味」の理解の仕方を提案する。	配布資料	【事前学習】本日の資料の確認 【事後学習】配布資料をファイルし内容確認	
		各コマにおける授業予定	第2章 人間における「生」と「死」の意味			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	西洋思想の二大源流(ヘレニズムとヘブライズム)を概観して、その思想的異質性を指摘し、次に人間観と死生観の比較を行う。	配布資料	【事前学習】本日の資料の確認 【事後学習】配布資料をファイルし内容確認	
		各コマにおける授業予定	第3章 ギリシア思想(ヘレニズム)における人間観と死生観			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	三元論的人間観に立つキリスト教の人間観では、肉体の死よりも霊の死を問題とする。死は罪の結果であるとはいかなることかを明らかにする。	配布資料	【事前学習】本日の資料の確認 【事後学習】配布資料をファイルし内容確認	
		各コマにおける授業予定	第4章 キリスト教思想(ヘブライズム)における人間観と死生観			

